









































































十二神臺
天和三年三月吉日
鷹寺山
定觀建立之



藤原秀郷(倭藤太)の五輪塔

總ヶ池(南砺市城端)の伝説に、藤原秀郷(平安時代中期の貴族・武将)が、近江国(滋賀県)琵琶湖の龍神の依頼により、谷の里にお礼としてもらった龍神の子を、水不足だった穀な穴に入れ、縄を張りめぐらして祈ったところ、山中に掘った小さに水が湧き出し池になったといわれています。一夜のうち蓮王寺では、この後日談を伝え、秀郷が任国の下野国(栃木県)へ帰ろうと小杉の里まで来たところで病氣にかかり、寺で療養したが客死、そのため供養の五輪塔を建立したとされています。五輪塔は高さ一七五センチ、石材は高岡市海岸部に存在する岩崎石(石灰質砂岩)で、年代は空輪・風輪が南北朝時代、その他は室町時代のもと考えられます。



『藤原秀郷新宮城陥落の図』丹波清年画『新形三十六国撰』より



五輪塔模式図

射水市

藤原秀郷（倭藤太）の五輪塔

縄ヶ池（南砺市城端）の伝説に、藤原秀郷（平安時代中期の貴族・武将）が、近江国（滋賀県）琵琶湖の龍神の依頼により、近江三上山の大百足を退治したとあります。水不足だった藁谷の里にお礼としてもらった龍神の子を、山中に掘った小さな穴に入れ、縄を張りめぐらして祈ったところ、一夜のうちに水が湧き出し池になったといわれています。

蓮王寺では、この後日談を伝え、秀郷が任国の下野国（栃木県）へ帰ろうと小杉の里まで来たところで病気にかかり、同寺で療養したが客死、そのため供養の五輪塔を建立したと伝えられています。五輪塔は高さ一七五センチ。石材は高岡市海岸部に存在する岩崎石（石灰質砂岩）で、年代は空輪・風輪が南北朝時代、その他は室町時代のもと考えられます。



「藤原秀郷龍宮城松射るの図」
月岡芳年画『新形三十六怪談』より



五輪塔模式図

射水市







